

SUZUKA UNIVERSITY LIBRARY NEWS

2026 年度
2月号



こんにちは！ 附属図書館です。

今年度も残りわずかとなりました。立春を迎え、暦の上では春に向けて少しずつ心が弾む2月ですね。とはいえ、まだまだ厳しい寒さが続きます。お家でゆっくりと過ごす時間も多くなります。寒い冬、あたたかい飲み物を片手に、読書を楽しんではいかかでしょうか。

❄️ 新着本がたくさん入荷しました！ ❄️

❄️
季節に合わせた
展示もしています



＊新着絵本＊



2月展示コーナー

～短期大学部 福永先生～



- ・ 乾ゼミ→食育
- ・ 木下ゼミ→給食、クックチル
- ・ 梅原ゼミ→コーヒー、
カフェイン（覚醒作用）
健康寿命、フレイル予防
月経、イソフラボン
- ・ 福永ゼミ→産学連携事業



〈学位記授与式〉

3月13日（金）

ご卒業おめでとうございます



ラランド ニシダ：芸人 おすすめ本

『 ことり 』

小川洋子 著/ 朝日文庫



芸人。短編小説の執筆活動を重ね、これまでに KADOKAWA から書籍『不器用で』、『ただ君に幸あらんことを』を出版している。

小鳥の囀りのような言葉を話す兄と弟の生涯を綴った一冊。自分のことも他人のことも取り繕うことができずに生きる人々の人生の物語。寂しさと温かさと美しさが、文章から滲んでいる。

[メッセージ]

本は自ら読み進めることでしか先には進みません。

このことは本だけが持つ、より正確に言うなら、文字だけが持つ素晴らしい特性です。

テレビや YouTube、音楽、演劇、演芸、その他たくさんの娯楽が世界には溢れていて、それらはわたしたちの暇に割り込もうと必死です。わたしたちの視覚聴覚に勝手に忍び込んで注目を集めようと企んでいます。

しかし、本だけは違う。本だけは読まなければ何もこちらに関わってこない。他の娯楽は誰かの作ったリズムで進むけれど、本はわたしと歩幅を合わせてくれる。

そういうところが好きで、わたしは本を読んでいます。

『リサイクルと世界経済 - 貿易と環境保護は両立できるか』

小島 道一/中央公論新社



国際地域学部 助教 / 伍 翔

経済活動のグローバル化が進むなかで、貿易と環境の関係は重要なテーマとして注目されている。グローバル経済においては、ある国の環境政策が貿易や海外直接投資に影響を及ぼし、それが他国の経済活動や環境にも波及する。一方で、貿易そのものが自国および他国の環境に影響を与えるという相互関係も存在する。

「リサイクル」と聞くと、ビン・缶・ペットボトルの分別回収や古紙・古着の資源回収、リサイクルショップでの中古品販売など、国内で完結する取り組みを思い浮かべる人が多いかもしれない。しかし実際には、リサイクルや再利用は国境を越えて行われており、世界経済と密接につながっている。

例えば日本では、使用済みプラスチックや古紙などの廃棄物が海外へ輸出されてきた。これにより国内の処理コストは抑えられるが、輸出先では処理設備や制度が十分でない場合も多く、不法投棄や野焼きによる土壌汚染や海洋汚染が問題となっている。一方で、日本で使用済みとなった中古車が海外へ輸出され、現地の人々の生活や産業を支えている例もある。このように中古品貿易は、資源の有効活用という点で環境にプラスの効果をもたらす側面を持つ。

この本は、こうした具体的な事例を通じて、貿易が環境に与える正と負の両面を丁寧に分析し、貿易と環境保護は本当に両立できないのかを読者に問いかけている。貿易と環境問題を総合的に考えたい人に、ぜひ手に取ってほしい一冊である。

* 卒業生のみなさんへ *

- ・本の最終返却日は 令和8年2月20日(金)です。これ以降は、貸出ができません。
(本学に内部進学が決定している場合は、新年度の4月から利用可能です。)
- ・本の返却がなければ、卒業が認められません。必ず期日までに返却をお願いいたします。